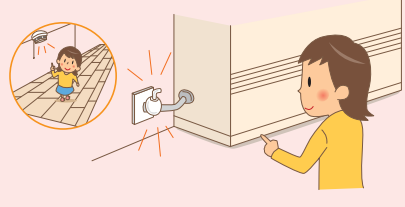


# 地震から身を守る

## 地震火災を防ぐために

### 火を使う 器具設備の点検と 整備をする

- 火気使用器具に故障や欠陥はないか、安全装置は正常に作動するか点検、整備しておく。また、火気使用器具は正しい使い方を習慣づける。
- 火気使用器具の周りに燃えやすいものを置かないように整理整頓しておく。



### 可燃性危険物の 管理に 十分注意する

- 灯油、アルコール類、スプレー缶、食用油など燃えやすいものは、正しく保管し、火気使用器具等から十分離す。



### 消火器や 消火用水を 用意しておく

- 消火器やバケツなど用意、また、風呂の水はいつもためておくようにする。
- 万一のときにうまく消火できるよう、防災訓練などで消火器の使い方を練習しておく。



揺れを感じたら、火を止める。  
避難するときは、もう一度確認。

地震のあとに起こる火災などの被害を「二次災害」といいます。「二次災害」は、人々の備えや行動で最小限にとどめることができますので、火事を出さないようにしましょう。

## ● 万一火が出たら 3つの原則

1

### まず、**大声**で知らせる

- 「火事だ!」と、大声を出して家族や近所に知らせ、「119番して!」とアピールすること。
- 声が出ない場合は、非常ベルや音の出る物を叩いて知らせる。



2

### 落ち着いて**初期消火**をする

- 小さな火のうちで消す一これを「初期消火」という。
- “小さな火”とは、壁やふすまなどの立ち上がり面から上方へ燃え広がって天井まで移っていない火事のこと。
- 手分けして、消火器や水をかけて消火する。

3

### 早く**避難**する **煙に巻かれない**ように

- “小さな火”で消すことができなったら、すばやく避難する。
- 煙の中を避難する時は、煙を吸い込まないようにする。そのためには、床面に顔を付けるようにして姿勢を低くして移動する。

### 消火器の使い方



## 津波から身を守るために

### 沿岸部や川沿いを 離れより高い場所へ

- 沿岸部や川沿いから「より遠く」「より高い」場所へ避難しましょう。



### 正しい情報で 冷静に行動を

- 「注意報」であってもすぐに避難し、ラジオ・テレビ・防災行政無線などで正しい情報を収集しましょう。



### 津波に過信は禁物

津波発生メカニズムは、まだまだ未知の部分があります。過去の例で判断するのは厳禁。とにかく海岸から離れる。

- 震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来間に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れがあったらすぐに避難を開始しましょう。
- 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報(特別警報)が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- 津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報が解除されるまでは、避難を続けましょう。



沿岸部や川沿い付近で揺れを感じたら、  
より早く、より遠く、より高い場所へ。

## 津波警報・注意報(※気象庁による)

種類	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の 場合の発表		
大津波 警報 (特別警報)	10m超(10m<予想高さ)	巨大	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ただちに沿岸部や川沿いから離れ、高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。</li> </ul>	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。
	10m(5m<予想高さ≤10m)			
	5m(3m<予想高さ≤5m)			
津波 警報	3m(1m<予想高さ≤3m)	高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ここなら安心」と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。</li> </ul>	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
津波 注意報	1m(0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ただちに海から上がって、海岸から離れてください。</li> </ul>	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。

## 津波ハザードマップと津波標識

津波ハザードマップや津波標識は、津波発生時に浸水が予測される区域や避難場所を示すものです。

日頃から色々な場面を考えて、避難経路や避難場所を確認しておきましょう。

※津波の規模は様々であり、浸水予測域から外れている地域においても浸水する可能性があることに注意が必要です。



津波避難ビル



津波注意(津波危険地帯)